

かんのうじ みちこ  
【一宮館主賞】 感王寺 美智子

空にいるおとうさんへ

「おとうさんは、青い空にいるからな」

1年前、亡くなる時にあなたは、そう言いましたね。

だから、私は夜空の星にあなたを探しません。

会いたい時はいつも、空を見上げながら、田んぼ道を歩きます。

すると、ミミズや蛙、たくさんの生き物たちに出会います。

でも、私は子供の頃から、虫や爬虫類が大嫌いだったでしょ？

見ただけで、悲鳴を上げていましたね。

あなたは、笑って言いました。

「こいつらはな、いい米さ育てんのを、助けてくれてるんだぞ」

そんな私が今は、田んぼ道で生き物たちに出会う度に

「おとうさん？」と思ってしまい、足を止めるようになりました。

あなたを思い、春の田を歩き、夏の田を歩き、そして秋、たわわに実った稲穂が、黄金の鬘（たてがみ）のように、誇らしげに揺れるのを見た時、私は気づきました。

田んぼの生き物たちが、皆、あなたに見えてしまうのは命というものが、  
全て繋がっているからなのだと。

おとうさん、寒い冬が来ます。それでも、私は土色の田を歩きます。

霜が降りた土の中にも、きっとあなたに繋がる命が眠っているから。

そして、その上にそれを見守る、あなたの空が広がっているから。

(熊本県/57歳/女性/自営業)

入賞者の作品への大切な想い…

おとうさん、あなたはいなくなっても、私はあなたから、まだまだ学んでいっています。